

吊旗



泥の沼 肺魚のたうつ

浮き世哉

地球儀の玉乗りかなしピエロかな

総毛立つナチスの儀式遣って退け

権力の座に獅^し噛^がみつくミイラかな

ファシズム 宿主^{しゆく}適^{しゆ}いて増殖し

ファシスト 不断着姿で佇まい

フオルテイツシモ線量狂う曝心地

神隠しハーメルンの笛の穴

原発の死装束に石ひとえ

廃炉より国の石棺先ひにあり

神々の深き欲望潰つぶえ去り

民主主義オキナワの血もて掌を洗い

ヘリパッドよくぞクイナを踏み潰し

象のオリ帝国巨大な耳を立て

思いやる宿主しやくしゅにやどるサナダムシ

イカサマの方程式を国が決め

格子なきガラスの檻の悶えびと

ヒロヒトの十字架曳いて暮れ泥なすむ

破り裂く皇室典範紙のオリ

天皇を盾に巢籠る魑魅魍魎ちみ ちみ もろじまう

スメラギの紙の爆弾そつと投げ

敗戦忌 青大将の軒に垂れ

負の遺産過去帳にピンで止め

まやかしの殺人装置か大鳥居

知らぬ間の十三階段のぼりつめ

弔旗垂れ 屍かばねおののく宿痾哉

平成のヤマトタケルがしやしやりいで

トリツクル先に兵士がこぼれ落ち

死の商人左団扇で恵比寿かな

空容器死神だけが透けて覗え

掃溜の鬼火かなしく燃えさかる

まゆつばの巫女は進軍ラツパ吹き

九官鳥 防衛大臣籠のなか

めでたきはテロの標的買って出る

戦雛こぞりて騒ぐ背後霊

N^{※2} 会議すめら御国の旗の下

※1、2 N(日本)会議 Ⅱ 神社本庁と宗教団体を中核とした安倍政権を支える右派組織。
約二八〇人の国会議員が名を列ねている。

籬^{たが}はじけニッポン丸は藻屑かな

傘さして核の威を張る御仁哉

蠅の王 わが総理かと毛もよだち

雛壇の官女いくさの旗を振り

神の国 少女[※]の首に綱を掛け

せり上げて観れば哀しきマリオかな

ペテン師の手先およいで悪をよび

脱輪のアベノミクスを空吹かし

お喋りの空薬莢を山と積み

虚言癖 一文字の口結び

檀家なき酸欠ありて木魚哉

日めくりの地獄草紙に胃がめくれ

塵芥ちりあぐた 唐箕とうみの尻けつがふるい分け

沈下橋への字に折れて曼殊沙華

この道は水漬く屍の通り道

骨壺の喉ぼとけが胡坐あぐらかき

蠹螂の齒間ブラシによだれ哉

年輪の涸木然らばと藪蚊逃げ

笛を吹く喉仏に 風一陣

水鏡すいきようにわが影射して雁はゆき

格子なき座敷牢にも集すたく虫

名月や独り螻蛄おけらが経を上げ

かじか鳴きカワトンボの拝みおり

死んだふり神業ありて五分の虫

緑折る笹の葉浮きて 虚舟哉

変身の逆さにあゆむザムザかな

油照り 泥鱸どじょうくねりて泡ひとつ

新盆に墓の蜥蜴とかげがつらを出し

火葬場の矩形のほとけ滑り込む

せめてもの柩に挿した花いちもんめ

文明のガレキモヨウに目が眩み

腰に縄 スマホ片手に徘徊し

指を立てて十万億土を駈けめぐる

失樂園 スマホおのれを弾きだし

珠算たまざんといまスマホの指史かな

たわむれに蜘蛛がつむぎしなま玉簾ただれ

逆鱗の身をよじりし肺魚哉

子ぼう子まもの浮き沈みして浮き世哉

布袋腹へそが欲しいとかわらず鳴き

穴ひとつ 土ち竜りゆう仰おほぐや朧月